

青梅市文化財ニュース

第286号

平成23年8月15日

発行 青梅市文化財保護指導員連絡協議会

青梅市郷土博物館（青梅市駒木町 1-684 TEL0428-23-6859）

沢井の田圃

J R 沢井駅付近の地形は数段の河岸段丘地形で、家屋は背後の山地と段丘面の境目、あるいは段丘崖に分布し、段丘面の多くは畑地として利用されている。しかしながら、沢井市民センターの北側で青梅線との間、そして沢井八雲神社の西方には、狭いながらも水田が分布している。多摩川に沿っては、羽村市羽加美四丁目から下流には広く水田が分布するが、それより上流部では水田が少なく、沢井駅付近の水田は、多摩川流域では最上流部に位置する水田である。

沢井市民センターの北側にある水田は、3段の棚田となっている。いずれも青色ビニールで覆われた畦で区切られ、最上段の面積は約 103 m²（約 31.2 坪）である。二段目の面積は約 69 m²（約 21 坪）、最下位は約 78 m²（約 23.6 坪）で、全体では約 250 m²（約 75.8 坪）の面積である。水田の幅は約 20m で、東側と西側の両側には幅 30～50cm の水路があり、水田を灌漑しているが、北西端では冷たい灌漑用水が水田へ直接流れ込むのを制御するため、細長い木板で「ぬるめ」が設けられている。

水田の北側には、二枚の狭い畑地が分布する。ここは水利が悪く、また小砂利が多いため、水田には出来ない土地である。また、水路を挟んだ水田の東側には幅約 18m、延長約 13m で、総面積約 210 m²（約 63.6 坪）の草地がある。昭和 40 年頃までは、四枚の水田であったが、その後、休耕田となっている。西側にはキューイなどが栽培されている畑地があるが、ここもかつては水田であった。

沢井八雲神社の西方に位置する水田も三段で、青色ビニールで覆われた畦で区切られている。最上段の面積は約 49 m²（約 15 坪）である。二段目の面積は約 71 m²（約 21.5 坪）、最下位は約 56 m²（約 17 坪）で、全体では約 176 m²（約 53 坪）の面積である。水田の幅は約 20m で、東側には、線路付近からの流れ下る幅 50cm の水路があり、水田を灌漑している。ここでも最下段の水田では、冷たい灌漑用水が水田へ直接流れ込むのを制御するため、木板で「ぬるめ」が設けられている。水田の上位には数段の畑地が、また下段には栗畑が広がっているが、この場所もかつては水田であったと云う。

2 か所の水田地帯での灌漑用水は、年間を通じて流れているが、一方では青色ビニールが階段状の畦を覆い、漏水を防止している。これは、付近一帯の地質構造と水田を作る土壌によるものである。数か所に基盤岩が露出していることから、水田土壌は階段状の畦の下では数十 cm 以下とほとんど無く、一方、畦の上段では、畦の高さが水田土壌の厚さを示

すほど厚い。このため、水田には「ぬかるむ」場所が多く、農作業がしづらいことから、口々に“困った困った沢井の田圃”と言われている。

これらの水田の所有者は、現在は青木利男氏である。聞くところによると、かつては名主の福島家の所有であったが、明治時代に青木家が購入したとの事である。

（文責 角田 清美）